

腎臓の炎症をブライト病と称し、急性腎炎、慢性腫大腎、萎縮腎の三期に分けている。ほかに遊走腎、腎盂炎、腎石、腎結核等を述べているが、ネフローゼは全く記述がない。

(愛知県幡豆郡)

アムステルダム植民地博覧会(一八八三) 医学部門に参加した日本とその展示品の日本四一病院見取図について

○石田純郎 H・ボイケルス

ロンドン水晶宮での一八五一年の博覧会以来、ほぼ五年毎に万国博覧会は開催された。万国博は、参加国の経済的、技術的または文化的発展を誇示し、産業博覧会として特徴づけられる。一八八〇年夏より、アムステルダムの有力実業家達は、万国博のアムステルダム開催を計画した。オランダの工業の停滞について認識していたので、産業博覧会ではなく、テーマを「世界の植民地と輸出品」と定め、一八八三年の五月から十月まで、半分完成していた国立博物館裏を会場として博覧会は開催された。

オランダ医学会の指導で、この植民地博覧会は、医学部門も含まれた。委員会はアムステルダム大学医学部 B.J. Stokvis 教授を委員長とし、協力した。この委員会は、一

八八三年九月に、國際植民地医学会議も開催した。このテーマで開かれた最初の学術集会であった。國際植民地医学会議の目的は、植民地や熱帯諸国の予防的医療的施策の実地の上にあるいは科学的な意義づけであった。この博覧会と會議は、主に欧州で植民地を持つイギリス、フランスそしてオランダが中心的役割を果たした。インド、ニュー・サウス・ウェールズ、ビクトリア、アルジェリア、蘭領インド等の非ヨーロッパ諸国の代表は、全てヨーロッパ人の中から選出された。唯一の例外が日本で、日本はアジアで唯一の独立国で非植民地であったが参加した。ちなみに、ヨーロッパでは、日本の一七世紀以後の医学は、今でも植民地医学の中に位置づけられている。

日本の参加は、日本に滞在したことのあるお雇いオランダ人医師と、日本人同僚医学者との間の連絡により決定されたと推定される。グロニンゲン大学薬学部 P. C. Plusse 教授は、組織委員会の一人であったが、その意味で注目すべき重要な働きをした。一八七六年から一八七八年に、彼は東京司薬場で働き、この司薬場は衛生局の下位組織であった。衛生局の薬化学者柴田承桂は、彼はまた日本公衆衛

生学の創始者でもあるが、日本政府公式代表として、この博覧会に参加した。柴田は後にプラッハが関係した東京司薬場で、一八七五年に数ヶ月間働いた。柴田はアムステルダムに滞在中、博覧会審査委員会委員及び、會議の名譽会長を務めた。

國際植民地医学会議では、欧州人が日本に関する研究を發表した。例えば W. H. van der Heyden と H. B. Scheube のように。ヘーデンは一八七四年に來日、新潟・神戸・東京・横浜で働き、一八九四年に帰国した。一八八三年の彼のオランダへの一時帰国の際、組織委員長 Sokris の實驗室で働いた。ヘーデンの發表は、顆粒細胞と種々の結合組織の細菌的起源を主張する仮説であった。一方ショイベは一八七七年から一八八一年まで、京都療病院教師を務めた。彼は日本の脚気について發表した。ベルツを共同研究者とし、その中でショイベは、脚気は沼沢地由来の感染症だと結論づけた。日本とジャワで作製した顕微鏡用プレパラートを示説して、脚気における末梢神経の炎症の主要な病理的変性を示し、風土病性の多発性神経炎という学術的概念を提唱した。

會議には貢献しなかつた日本も、博覧会医学部門へは参加した。組織委員会は三つのテーマを与えた。それはまず、植民地における衛生状態、次に公衆衛生体制、最後に病院と診療院についてであった。日本はその全てのテーマに応じ、衛生局製作の展示品を供覧して参加した。当時衛生局長は長与専齋であった。展示品は温泉の写真、気候を示すグラフ、コレラ流行時の患者数と死亡数、コレラの流行とその強さを示す地図、全国病院見取図と各病院の患者数・死亡者数動態等であった。病院見取図は金メダルに輝いた。日本の衣類に使われている繊維の物理的衛生的特性の分析結果を示した表が準金メダルに輝いた。病院統計と病院見取図の大部分は、オランダに現存しており、二八病院の衛生統計と、四一病院見取図が保存されている。この病院見取図は、一八八三年以前二〜三年内に作製されたと推定され、東京芝総合病院、横浜総合病院、新潟総合病院、京都総合病院、大阪総合病院、岡山総合病院、長崎総合病院等四一病院に及ぶ。一帖大のカラーの美しい図で、その一部を供覧する。

別の観点からみると、この博覧会に参加した日本は、衛

生局が創設され十年の間の、日本における西洋医学の成功をヨーロッパの一般大衆に印象づけた。日本をヨーロッパのレベルまで持ち上げるといふ明治政府の目標は、既にこの博覧会で一部実現したのである。

(三菱水島病院、ライデン大学)